

グローバル通信

2011.6 vol.21

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

東日本大震災から3カ月が経とうとしています。あらためまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

気がつけば梅雨の季節となりました。4月には政策学研究科が開設され、本コースは法学研究科、経済学研究科、社会学研究科、政策学研究科の4研究科共同運営のもとで再出発しましたが、今年も高い志を持たれた25名の方が本コース生として入学されました。

今月号では、東日本大震災の被災地で活躍されておられる修了生による活動報告や入学された皆さんからの熱いコメント、修士論文報告会などを中心に、さらなる飛躍を始めた本コースの姿を掲載しました。今年度も本コースの活動をしっかりと伝えさせていただきます。よろしくお願いたします。(編集部)

地域コミュニティという宝物を源泉に	1
ラジオのもつ力を切り口に民主的な成熟した地域社会を	1
ご入学おめでとうございます	2
新入生へメッセージ	3
修了生の今「震災復興支援活動特集」	3
政策学研究科がスタートしました	4
「草創」の創刊＆「学びの広場」がスタートしました	4
修士論文報告会	4
事務局インフォメーション	4



地域コミュニティという宝物を源泉に

門川 大作 (京都市長)

我が国随一の歴史と伝統を誇り、多くの人々を魅了し続けるまち京都。

ここ京都には、文化、景観、ものづくりなど数多くの“宝物”がありますが、中でも最大の“宝物”は「地域コミュニティ」である。私はそう思っています。

京都市は147万人もの市民が暮らす大都市でありながら、町内ごとの「地蔵盆」、隣の家の前まできれいにする「門掃き」などに象徴されるように、地域の人々の温かい絆が伝統的に息づくまちです。それが、地域の課題の解決から、子育てやお年寄りの安心安全にいたるまで、まちを発展させ人々の暮らしを守る礎となってきました。

しかし昨今は、生活様式の変化などにより、全国的にそうした絆の希薄化が危惧されて久しい状況に…。そんな中、3月に発生した東日本大震災を受け、今、京都市民の方々をはじめ日本中の方々が、被災者の方々の支援と被災地の復興のため積極的に行動されているお姿に、私は改めて思いました。困っている人や地域のために役に立ちたい、もっと地域を良くしたい、そんな思いは、私たちの心の根っこに今も昔も変わらずしっかりと息づいていると。

龍谷大学大学院NPO・地方行政研究コースは、そんな地域の多様な人々や団体の思いに共鳴し、あるいは掘り起こして、ともに実践行動できる人材の育成に大きな成果を挙げておられます。

京都に息づく地域コミュニティをまちの発展の源泉として重視し、その更なる活性化に取り組む本市と致しまして、本コースの優れた研究・実践を誠心強く存じております。

今後も、本コースで学ばれる方が、それぞれの地域の抱える課題、あるいは他の地域と共有する課題に果敢に立ち向かい、地域コミュニティを再び光輝させる原動力となられることを、心から期待致しております。

結びに、本コースの更なる発展充実と修了生の皆様の御活躍、そして本コースを通して各地域から日本全体を元気にする取組がますます広がっていくことを、心から祈っております。

ラジオのもつ力を切り口に民主的な成熟した地域社会を

吉富志津代

(特定非営利活動法人たかとりコミュニティセンター 常務理事)



たかとりコミュニティセンターは、阪神・淡路大震災の支援活動をきっかけに、住民自治の大切さと、その住民が多様なことに気づき、性別、年齢、障がいの有無、国籍、民族、出身地などにかかわらず、どんな住民も排除されることのない『多文化共生のまちづくり』に取り組んでいます。

2011年3月11日の東日本大震災は、私たちにとても他人ごとではなく、直後から多言語による情報提供とともに、ラジオのもつ力と多文化の豊かさを切り口に、私たちができることを続けています。このつながりが、今後の復興の中でも活かされていけば嬉しいと考えています。

しかし、これは「情報の多言語化」「地域のラジオ放送」をめざしているという意味ではありません。「多言語情報」「コミュニティラジオ」は、「目的」ではなく、あくまで「道具」でなければなりません。情報を多言語にするということは、地域社会において、日本語の理解が不十分なために情報が得られない不安や、まちづくりの輪の中から排除されるおそれに基づく視点をもつということです。情報を伝えてコミュニケーションが可能になれば、伝わった人からは違った視点の意見がもたらされることもあり、地域社会のすべての人たちの知恵が活かされることにつながります。ラジオも、そのコミュニケーションの大切な手段であり、使い方によっては、そのような多様な住民が集う拠点にもなり得るのです。そのプロセスを積み重ねることで、民主的な成熟した地域社会に近づいていくのではないのでしょうか。

「論文を書くこと」も同様でそれが目的ではなく、そのプロセスにおいて、現場で感じている課題に理論武装の裏付けをし、説得力を伴った発信のための大切な力をつけてくれるものであると思います。2010年度に、龍谷大学のNPO・地方行政研究コースで学んだたかとりコミュニティセンターのメンバーは、まさにこの力をつけ、今後、自分たちのめざす社会に向けた市民運動の飛躍を実感しています。

このような機会を提供して下さる龍谷大学への感謝と、今後のさらなる連携への期待を込めて、パートナーシップを続けさせていただきますしたいと思います。

ご入学おめでとうございます

- ①氏名 ②研究科名 ③所属団体
④自己紹介&研究テーマ

富野・高橋先生
セミ



富野先生

- ①岸 暹
②政策学研究科
④私は社会保障政策に興味があるので、「ワーク・ライフ・バランス」に関する論文を作成してこうと考えています。趣味は音楽鑑賞で、特に ROCK をよく聞きます。宜しくお願いします。

- ①鳥部 聖人
②政策学研究科
④仏像鑑賞という趣味がきっかけで京都に来ました。学部時代は白石セミに所属しています



高橋先生

た。まちづくり・環境・観光が興味分野です。知識や経験共に未熟なので、講義やインターンから多くのものを得る年にしたいです。

- ①池田 佳代
②政策学研究科
③京都市東山いきいき市民活動センター
④1970年代後半以降、「コミュニケーションする権利」や、放送へのアクセス権の保障が世界に広がり、市民が放送に参加する仕組みが韓国や台湾でも実現した。これが日本に届かない理由を分析し、実現の条件を描きます。

- ①池田 英郎
②政策学研究科
③(特)ユースビジョン/塔南の園児童館
④活動は、地域の中で子育て家庭支援、若者の活動支援などを行っています。毎日の現場で感じている「モヤモヤ」した思いを、ちょっとでも「スッキリ」に変えていきたいと思っています！

- ①小林 美智子
②政策学研究科
④茨木市議会は地域連携協定を結んでいる唯一の地方議会です。その協定を活用しない手はありません。普段は現場で政治と向き合っていますが、学問として政治を学び、頭の整理をしたいと思っています。

- ①正阿彌 崇子
②研究科名 政策学研究科
③ジュゴン保護キャンペーンセンター
④私は市民が町のことを自分たちで決められる仕組みが必要だと思っています。しかし、その仕組みは地域によって格差があります。研究を通して、市民が地域政策にどう

やって関わっていきけるかを考えたいです。

- ①鈴木 啓也
②政策学研究科
③奈良市役所 人事課で職員研修を担当しています。
④授業で自治体職員はしんどそうに仕事をしているという話になり、私の職場でも当てはまることだと思いました。NPOで生き生き働いている方を見ると、この違いは何かなのか？と思い、研究を通じて考えていきたいです。趣味は登山です、興味がある方と一緒に登りにいきましょう！

- ①比賀江 文字
②政策学研究科
③SE/コンサルタント
④ライフワークを心の進化探究にしているアフリカを愛する未来の複雑系コンサルタントです。研究テーマ「非営利団体の自立性向上を促進する社会的価値に関する研究ー社会的価値の測定方法の考察ー」ともに学べる喜びを存分に満喫させていただきます。

只友・矢作先生
セミ



只友先生

- ①野澤 征子
②経済学研究科
③NPO法人キッズナビわが家
④子育て支援のNPOを立ち上げて4年目になります。趣味は、箏曲、茶道、登山、スキーです。特に、スキーは家族と一緒に北海道を中心に滑っていました。一昨年、主人が大病を患い、今はストップ状態です。研究科の授業で良い刺激をもらっています。

- ①居内 壯大朗
②政策学研究科



矢作先生

④政策研究科での講義を通して活性化に悩む地域を活気の溢れる町にできるまちづくりの能力を獲得したいです。講義についていてないですが挨拶だけは元気よくします。趣味は温泉巡りとボルダリングにまっています。

- ①若本 陽子
②政策学研究科
③卒論は中国の大学生ボランティアについて書きました。修士では現在関わっている学生 Place + (学生の社会貢献活動支援)

の取り組みと、研究をつなげて成果が出来るよう頑張りたいです。休日はインモアウトアもどちらも好きです。

- ①櫻本 昌子
②政策学研究科
④学部時代はインターンシップばかりやってきました。その分今年はむやみに動かないでちゃんと研究に専念するつもりです。趣味はスポーツと工作と美味しいものを食べることです。

- ①千代 苑子
②政策学研究科
④英国の大学では舞踊専攻で学位を取得し、帰国後文化政策や地域コミュニティに興味を抱きました。研究テーマは文化政策におけるコンテンポラリーダンスやコミュニティダンスの普及と発展の可能性を中心に考えています。

- ①岡岡 宗人
②政策学研究科
③NPO法人環境市民
④社会を変えよう力を持ったNGOを実現していくこと。その一環で、自治体行政の評価と改善への市民参加の仕組みの構築について研究したいです(自信はありません)。趣味は読書(仏教書)と音楽鑑賞(クラシック)。

- ①松本 敏
②政策学研究科
③NPO法人 デイコールサービス協会
④研究テーマは、「人の生命」の危機管理論研究です。無縁社会から人と人のつながる社会へ「デイコール」を使ったコールセンター運営事業に、皆様の参加を呼び掛いています。また、興味分野は米国公共政策大学院のキャブストーン学です。

白石・河村先生
セミ



白石先生

- ①石田 浩基
②政策学研究科
④環境という視点から見た食料の問題に関心があがり、フードバンクというNPOの活動について研究を進める予定です。また、様々な環境問題に対して知識を深め、進路決定に活かしたいと思っています。

- ①上野 敏寛
②政策学研究科
④政策学研究科では、新しい課題解決アプローチと政策形成を研究したいと考えています。ここで得た経験を社会課題の解決のために活かせるよう頑張ります。イベント企画運営、ポスター・WEBデザインの経験があります。



河村先生

- ①芝本 和孝
②政策学研究科
④自転車社会のメリットを調べ、自らが住んでいる滋賀県でどうしたら自転車社会をつくれるのか研究したいと思っています。様々な経験をされている方と一緒に勉強できるので、知識を吸収してキャリアアップに繋がりたいです。

- ①大西 英生
②政策学研究科
③枚方市土木部道路整備課
④これからも必要不可欠であるインフラの維持管理に関わり続ける市民、市役所、工業業者の満足度と事業効率性が向上するような、協働型公共工事について、今年一年研究したいと思っています。

- ①岡本 博和
②政策学研究科
③宇治田原町
④地方自治体財政が興味分野、研究対象です。まちの財政担当で仕事してきて、これからの自治体財政運営はどうしていけばよいのかという事を思い、興味分野となりました。あつという間の1年を頑張りたいと思います。

- ①下釜 卓
②政策学研究科
③京都府山城広域振興局建設部 山城北土木事務所企画調整室
④関心は、治水政策、インフラの多面的価値の創造・保全・修復で、研究テーマは「市街地での局所的豪雨時の流出抑制に対する住民・事業者との協力体制整備・情報共有の促進」です。仕事と生活のタイミングが合い、学べる機会を得て感謝します。

- ①川上 利恵
②政策学研究科
③大阪市(大阪市総務局職員人材開発センター)
④重要伝統的建造物保存地区などの古い町並みをめぐり、温泉でのんびりするのが趣味です。様々な経歴をお持ちのみなさんと共に学べることはとても刺激になります。

- ①若生 麻衣
②政策学研究科
③特定非営利活動法人きょうとNPOセンター
④研究テーマは、台湾における民主化・政権交代に伴う地域戦略と非営利セクターの変化について。タフな一年になりますが、出会いや発見をだいじに過ごしたいです。趣味はオールドローズの有機無農薬栽培。

- ①前川 明
②政策学研究科
③キャリアコンサルタント(フリーランス)
④キャリアコンサルタントとして主に大学生の就職支援をしているので、若年者の雇用政策について研究する予定。政策学分野は自分の知らないことが多いので自分の身になるように研究を深めたい。

- ①山崎 晶子
③京都市(社団法人 京都市観光協会)
③政策学研究科
④研究テーマは、3年間従事した「大学のまち」学生のみ「京都の推進に、観光を絡めたものにした」と考えています。観光協会では新米事務局長として悪戦苦闘中ですが、観光客の方が普段入れない所を観る機会があるので「早く」にあたってような、恵まれた仕事です。

※特別演習ごとに紹介しています。

新入生へメッセージ



夢と希望と発見の
白熱教室と
実践化に期待

高橋 進 (法学部教授)

今年度初めてNPO・地方行政研究特別演習を担当しています法学部所属の高橋進です。専門はイタリア政治史、特にイタリア・ファシズムですが、関心は広く、イタリアだけでなく日本の自治体問題、分権化、住民運動、選挙、国民投票、EU、移民問題などあれこれ書いています。滋賀県で滋賀自治体問題研究所の役員もしています。この特別演習には、行政やNPOの職員、議員、学部からの学生など多様な人びとが参加しているので、白熱した議論と実践的政策立案に期待しています。



二足の草鞋にめげず

石川 両一 (経済学部教授)

新しくNPO・地方行政研究コースに進学された院生のみなさん、ご入学おめでとうございます。当コースの共同運営において、経済学研究科では、主として経済学的手法を用いた専門科目を開設しています。コース開設以来、これまで当研究科から合計22名の修了生を輩出し、それぞれが現場の第一線で活躍されていると聞いております。

社会人と大学院生という二足の草鞋を履くことは多大なエネルギーを要しますが、修了したときに豊富な知識と経験が身に付いていることは間違いありません。



みなさんのご活躍を期待しております。



新たな出発を迎えた
NPO地方行政研究
コースの皆さんへ

富野暉一郎 (政策学部教授)

新院生の皆さんNPO地方行政研究コースによろこそ！

本コースは発足以来、地域と世界が響き合うグローバルな時代にあって、地域社会のセクターの壁を越えて地域社会の生き活きた再生を担う人々を輩出する切磋琢磨の場として、院生の皆さんと教員が共に手を携えて豊かな活動を展開してきました。

この間、NPOや行政を中心とする社会人の皆さんと、学部から大学院に進学した若い院生の皆さんが修士論文の執筆を軸に研究と議論の場を共にして、刺激し合うことは、レベルの高い研究と学を介した強いヒューマンネットワークに繋がれることを私たち教員は実感してきました。

今年も厳しくも楽しいコースライフを一緒に満喫しましょう。

藤野 正弘

(特定非営利活動法人きょうとNPOセンター／2006年度修了)

京都災害ボランティア支援センターでは、被災地に対する支援のほか京都に避難されてきた方々への支援も行っています。ボランティアバス第1陣では、定員90人に対して460人の応募があるなど、従来の災害支援とは異なる関心の高さ、広がりを感じています。また、センター運営も多くのボランティアによって成り立っています。求められる支援を継続して行うことが重要だと思って活動しています。



大きながれきを撤去



作業の様子

写真提供：京都災害ボランティア支援センター

3月11日に襲った東日本大震災の影響から、全国で復興や被災者支援の取り組みが行われています。そのような中、私たちNPO・地方行政コースの修了生からも復興・支援活動のため被災地へ向かわれている方々がいらっしゃいます。今回、そのような修了生の活動から現地の生の情報をお伝えします。

(編集部)

修了生の
今
その3

阪神淡路大震災の直後にコミュニティラジオ局を立ち上げ、被災者への多言語情報提供と復興活動を続けてきた経験を生かし、東日本大震災の発生直後より「ラジオ」と「多言語」を柱とした活動に取り組んでいます。中国からの研修生や国際結婚でフィリピンから来た女性たちにラジオを通して多言語で情報を届けるとともに、外国人被災者が孤立しないようなコミュニティづくりの支援を行っています。

田村 太郎

(ダイバーシティ研究所／2003年度修了)

NPOと被災者をつなぐプロジェクト「つなプロ」を宮城県内で展開しています。また3/16から内閣官房の企画官として、北から南まで被災地を歩き来しています。阪神大震災以来積み上げてきた「市民社会」の経験が試されています。被災地の復興はまだこれからです。「一人ひとりを大切にしたい復興」をみんなできましょう！



石巻市役所前を守る仮面ライダーV3と田村氏

写真提供：ダイバーシティ研究所

日比野純一 (たかとりコミュニティセンター／2010年度修了)



宮城県亶町町の臨時災害FM局「FMあおぞら」

写真提供：たかとりコミュニティセンター

政策学研究科がスタートしました

石田 徹（政策学研究科長）



私どもはこの4月に、持続可能な社会、協働型社会を担う高度の専門的職業人、研究者の育成を目指して政策学研究科を立ち上げました。研究科の発足直前に、日本の観測史上最大の大地震、津波と世界最悪の原発事故が同時に起こるといふ未曾有の大惨事に日本は見舞われました。現実に行っている難事の解決策を探ることが政策学の使命であるとすれば、発足間近とはいえ政策学研究科に課せられた責任は大きいといえます。政策学研究科としましては、法学研究科をはじめとして他の大学院と協力、協働しながらNPO・地方行政研究コースを充実、発展させ、日本が抱える公共的課題を解決していける人材を育てていきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

石田先生

「草創」の創刊＆「学びの広場」がスタート

栗田 豊一（東近江市／2007年度修了）

龍谷大学NLネットワーク主催による「学びの広場-現場からの発信」を、5月18日に開催しました。学びの広場は、修了生を中心に、NPO、企業、自治体などで活動されている人たちに、自身の活動事例を発表していただく場を設けようと新たに始まった事業で、初回のこの日は、近江八幡まちづくり支援課の南かおりさんに「多文化共生推進指針と計画策定に向けて」をテーマに発表をいただきました。

当日は、メーリングと口コミだけの周知にも関わらず25名の参加者が集まり、会場の温度が上がるほどの熱気の中で、発表者も参加者も互いに刺激をうけ学び合える、まさに「学びの広場」となりました。

今回は、7月20日（水）に一般財団法人社会的認証開発推進機構の平尾 剛之さんを発表者にお迎えして開催する予定です。みなさんも、ぜひご参加ください。



草創 Vol.0

修士論文報告会

3月19日卒業式の後で卒業生による修士論文報告会が開催されました



卒業式での集合写真と報告会の様子

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。卒業式の後で先輩方の報告をお伺いしました。私は早期履修生として、特別演習の講義を通して研究過程を拝見していましたが、最終的にはこのようになったのかと驚きや発見がありました。また修士論文の執筆に向けて参考になります。この1年間は常々、修士論文の執筆に苦しまれる先輩方の姿を拝見しておりましたが、卒業式この日はみなさんとてもすがすがしい表情をされていて私もほっとしました。ここでの経験を活かして現場でも今後ますます活躍されることと思います。本当にお疲れさまでした。

榎本昌子（政策学研究科）

事務局インフォメーション

- NPO・地方行政研究コース事務局が、政策学部教務課に移管されました。

連絡先：政策学部教務課 ダイヤルイン075-645-2285

- 講演会のお知らせ

地域リーダーシップ研究講演会①

テーマ：「東日本巨大震災／現地報告」

講師：赤澤清孝氏

（被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト事務局長）

日時：6月4日（土）13：15～14：45

場所：深草学舎21号館501教室

先進的地域政策研究講演会①

テーマ：「被災地のコミュニティFM — 臨時災害FM局の支援活動から」

講師：日比野純一氏（FMわいわい代表理事）

日時：7月23日（土）13：15～14：45

場所：深草学舎21号館504教室

NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻21号 2011年6月

発行／龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース
連絡先／教育学部（深草）
TEL：075-645-7891 FAX：075-643-5021

H P／http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
編集／大矢野修、松浦さと子、土山希美枝（編集補助）榎並ゆかり、増田貴大、岩本陽子、鳥部聖人
印刷／株式会社 田中プリント